

近代京都の着物図案に関する研究

A Study of the Kimono Designs in Kyoto during the Meiji, Taisho and early Showa periods

山本 真紗子^{*1+}, 並木 誠士^{*2+}, 青木 美保子^{*3+}, 山田 由希代^{*4+}, 加茂 瑞穂^{*5+}

Masako Yamamoto^{*1+}, Seishi Namiki^{*2+}, Mihoko Aoki^{*3+}, Yukiyo Yamada^{*4+} and Mizuho Kamo^{*5+}

*1 立命館大学衣笠総合研究機構 京都市北区等持院北町 56-1

Kinugasa Research Organization, Ritsumeikan University,

56-1 Toji-in Kitamachi Tojiin Kita-ku, Kyoto, Japan

*2 京都工芸繊維大学大学院工芸科学研究科デザイン学部門

Kyoto Institute of Technology, Faculty of Design Science, Department of Design,

*3 神戸ファッション造形大学ファッション造形学部

Kobe University of Fashion and Design, Faculty of Fashion and Design,

*4 京都府立堂本印象美術館,

Kyoto Prefectural Insho-Domoto Museum of Fine Arts,

*5 立命館大学 文学研究科

Graduate School of Letters, Ritsumeikan University,

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化学園大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Gakuen University

Abstract :

This study aims to survey materials, sources and information related to kimono, kimono designs, and textiles produced in Kyoto during the modern period in Japan. We contacted collections located in the city of Kyoto with materials related to our research by mail and the resulting survey has cast some light on the whereabouts and current state of kimono those days. This year, we interviewed the staff in charge of the collections. We made a list of the articles that appeared in the newspaper *Shenshoku Hinode Shinbun*, as they give an invaluable insight into the trends of the textile industry in Kyoto during the early Showa period (1932-1940). We interviewed Takashimaya Department Store staff in order to understand the important role that the kimono design department of the store (*Takashimaya Hyakusen-kai*) played in establishing kimono fashion trends. We will complete the list of survey activities next fiscal year, and our survey will be open to the public.

①本研究の目的

近代染織、とりわけ着物の生産地として栄えた京都市内に点在する近代の着物関連資料の所在や現状

*1) mayama1212@gmail.com

に関する調査をおこない、情報の整理と体系化を行うことを目指す。共同研究にあたって、各研究者の所属先における所蔵資料を手始めに、京都市内で所蔵されている資料の調査と関係者への聞き取り調査を実施する。また共同研究者は、本共同研究で収集した調査・資料を元に、それぞれの設定した研究課題に取り組む。

②平成 23 年度の活動

- (1) 京都市内における近代染織関連資料の所在確認(アンケート調査/資料の閲覧・聞き取り)
- (2) 『染織日出新聞』の調査
- (3) 高島屋百選会関係者への聞き取り調査(*平成 22 年度末に実施)

- (1) 京都市内における近代染織関連資料の所在確認(アンケート調査/資料の閲覧・聞き取り)

京都市内の資料群の現状を把握するための基礎調査として、京都市内の博物館・美術館、大学、企業、個人所蔵者を対象に、所蔵資料とその整理・公開状況に関するアンケート調査を実施した。所蔵資料の概要のほか、整理状況(目録・データベースの有無)、公開状況等について質問したアンケート用紙を、調査対象機関(30 件)に郵送した。

回答があった館で調査の許可が得られたものをピックアップし、共同研究のメンバーで順次訪問調査をおこなった。調査では、資料の実見をおこない、所蔵資料の特徴、資料保管や活用の状況についての聞き取りをおこなっている。

今年度訪問調査をおこなったのは下記の機関である。

- ①京都市立洛陽工業高等学校
- ②京染会
- ③京都市学校歴史博物館
- ④NPO 法人 古布保存会
- ⑤京都工芸繊維大学
- ⑥立命館大学

上記の調査の結果については、本共同研究拠点でのポスター発表で公開した。次年度も継続して調査をおこなう。

- (2) 『染織日出新聞』の調査

『染織日出新聞』の書誌的調査をおこなった。国立国会図書館と京都市立右京中央図書館に所蔵されたマイクロフィルムを調査し、同紙の発刊月日を調査した。また、一部ではあるが、記事索引の作成を開始している。

■『染織日出新聞』

昭和 7(1932)年 4 月 1 日創刊。京都、日出新聞社より発刊。

昭和 15(1940)年 1 月より『週刊経済』へ改称。

昭和 15(1940)年 8 月 29 日以後廃刊。

■所蔵館

- ・国立国会図書館
 - ・京都市立右京中央図書館
 - ・京都新聞社
- *いずれもマイクロフィルム

(3) 高島屋百選会関係者への聞き取り調査―[1]

調査日:2011 年 3 月 10 日

場所:高島屋史料館アーカイブ室

出席:百選会専属デザイナー:上村宏、表田治郎、喜田雅子、山口明朝

元本社事業部 橋野喜紀

MD 本部呉服ディビジョン長 池田喜政 (敬称略)

司会・質問:青木美保子 山本真紗子 山田由希代

傍聴:高島屋広報担当者、史料館長他若干名

■「百選会」とは

大正 2(1913)年から、途中第二次世界大戦による中断を経て、平成 6(1994)年まで、182 回開催された新柄呉服の展示会および新柄開発組織。開催に先立ちテーマ、趣意書、標準図案(趣意を視覚的に表現したイメージ図案)を染織業者に提示したうえで、新柄呉服の募集を行い、染織業者から集まった作品を審査して、特選を選び展示販売した。百選会は、社会動向を意識し、時代の美意識を反映させたモダンなきものを展示し、流行を牽引していた。

■インタビューから見えてきたこと

- ・新しいことに挑む社風が、百選会成功の理由

図案室や宣伝部は、「進取の精神」がみなぎっていて、失敗をおそれず新しいことにチャレンジできる環境であった。

保守的な意見と革新的な意見がでると、革新的な意見を貫き通す先輩がいた。

会社は、クリエイターを大切にしてくれた。

- ・百選会が流行を牽引

趣意書や標準図案を参考に染織業者は商品開発をするため、どの商品も同傾向のものとなった。

百選会で発表する新柄に、多くの女性達が注目していた。

百選会は、回ごとに図録を作成していた。図録を出すと、それを元に類似品が、世の中に出回った。

百選会の新柄は、映画の衣装としても取り上げられ、話題になった。

評判を聞いて百選会に足を運ぶお客様が、手軽に買える価格帯であった。

文献

- 1 * 座談会出席者: 山口明朝、表田治郎、上村宏、喜田雅子、橋野喜紀、池田喜政、飯田新吉、青木美保子、山田由希代、山本真紗子: 「きものにおける芸術と意匠創業 180 周年記念企画 近代きもの流行を作ってきた『百選会』OB・OG が語る、高島屋「大切なのは、一つ突き抜けるための努力」: 『T-Times』2011 年夏号(* 高島屋社内向資料), (2011)